

講義名	対1)物流産業論			授業形態	
担当教員	森 隆行	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

本講義では、物流業の発展と業態革新に注目しつつ、前半では、主として国内物流を担うトラック、鉄道、倉庫等の物流業にスポットを当て、後半では、国際物流を牽引する海運業、空運業、さらには国際物流と国内物流をターミナルにおいて連結する港湾業に論点を移していく。規制緩和、情報化、グローバル化を背景に、物流産業がどのような劇変工夫を凝らして、一国の経済発展、さらには個々の製造業、流通業のダイナミックな展開に寄与しているのかを明らかにしていく。宅配便ひとつ取り上げても、陸の宅配、空の宅配、国内ネットワーク、国際ネットワークと果ては行動領域は拡大するとともに、その中で優れた事業戦略をいかに展開するかが問われている。物流産業がオールマイティな総合物流業へと進むダイナミックな変革プロセスを展望する。

到達目標

物流用語の基礎知識の習得。
物流産業とはどのような産業を指し、どのような企業があるか、またその企業の内容の概略を知る。
物流産業の、それぞれの業界に関する基礎知識を習得する。

提出課題

講義の中で提示する

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義の中でフィードバックする。

評価の基準

レポート・提出物 20点
小テスト（複数回実施） 80点
毎回出席確認し、3分の1以上の欠席は認められない。

履修にあたっての注意・助言他

物流に関わる産業とその動向から日本と世界の経済動向を知ってもらいたい。日頃からニュースなどに注意を払うよう心がける。また、国際物流論などの物流関連の講義も受講してほしい。

教科書

・<教科書> 「現代物流の基礎」森隆行著、同文館出版、2018年 第3訂版。 森隆行 同文館出版

参考図書

その他

<プリント資料及び参考文献>
必要に応じてプリント配布

授業計画

1. 「物流産業論」理解のために
2. 物流の基礎
3. 物流産業の構造
4. トラック産業と宅配便
5. 鉄道貨物輸送とモーダルシフト政策
6. 外航海運概論
7. 内航海運業
8. 航空貨物輸送事業
9. 利用運送事業
10. 倉庫業と物流センター
11. 物流産業における規制緩和
12. 港湾業の競争優位構造
13. 総合物流業の展望
14. 総合物流業の展望
15. 全体まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

その日の予習（1.5時間）及び講義の復習として講義内容をまとめるのに2.5時間、合計4時間の学習が必要です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

選択必修科目であり、卒業の必須要件ではありませんが、履修することが望ましい科目です。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
実際のビジネス場における経験を講義に反映させることで具体的にわかり易い講義にする。

備考

新型コロナウイルス感染症の感染、または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生は、オンライン（youtube）で講義の動画を配信するので、各自学習してもらいます。また、都度学習確認の意味で講義内容について報告していただきます。
また、新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスの修正がある場合があります。